

自己評価及び外部評価結果

[事業所概要(事業所記入)]

事業所番号	0171400682		
法人名	医療法人社団 向仁会		
事業所名	グループホームよろこびの家1階		
所在地	北海道函館市栄町16番16号		
自己評価作成日	平成24年7月1日	評価結果市町村受理日	平成24年9月11日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0171400682&SCD=320&PCD=01
-------------	---

[評価機関概要(評価機関記入)]

評価機関名	タンジェント株式会社
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1-6 旭川リサーチセンター内
訪問調査日	平成24年8月27日

[事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)]

当グループホームは5ユニットと稀にみる大所帯です、職員の数も多く、協力し合っています。また、当法人はグループホームが他に3箇所とクリニック、老健施設、包括支援センターがあり、相互で情報交換や勉強会、研修等を実施し、全体で質を高め、向上できる体勢にあります。グループホームでは独自の理念を掲げ、職員全員が理念に基づいた環境作り心掛けています。入居者様からは当然ですが、ご家族様からの要望なども、その都度意見や疑問を聞きながら、その内容の経過や段階を報告し、出来るだけ意向に沿った運営が出来るように常日頃から実施しております。近隣との繋がりにも重点を置き、町会主催の夏祭りや餅つき、街の清掃活動などイベント活動に入居者様と共に職員も参加させて頂き、ご理解や馴染みの関係を作っている。

[外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)]

＜地域との連携・協力関係づくり＞
町内会主催の夏祭りや盆踊り、地域の清掃活動に参加したり、小学校の生徒との交流を通じて認知症について理解される取り組みや事業所主催の行事の参加案内を配布するなど交流促進に取り組んでいる。また、地震・津波等の災害時には地域と連携した避難誘導や避難場所の確保に協力・支援をしている。
＜火災、地震、津波等の災害時の地域との協力的体制づくり＞
日頃より家族との避難、誘導の話し合いや市担当者・消防署の助言やアドバイス、近隣住民と協力しながら災害時の避難場所提供で緊急時に速やかに対応ができるように行政・地域と協力的体制構築及び事業所の持つ機能を地域に提供できるように取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	☐ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができ ている (参考項目:9,10,19)	☐ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	☐ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	☐ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	☐ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	☐ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	☐ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	☐ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	☐ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	☐ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	☐ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	☐ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	☐ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域での「共生(共に生きる)」を念頭に地域での催し物への参加、事業所内での催し物(運営推進会議等)へのご案内を通じて相互の交流を深めるべく努めている。	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所独自の理念をつくりあげ、その達成の為にユニット毎の目標を掲げ、実践している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の催し物や小学校での行事への参加・見学を通じて地域との交流を深めている。また、馴染みのお店での買い物など希望に応じた対応に努めている。事業所としては、地域の清掃活動・花植え活動などに参加している。	町内会主催の夏祭りや盆踊り、地域の清掃活動に参加したり、小学校の生徒との交流を通じて認知症について理解される取り組みや事業所主催の行事の参加案内を配布するなど交流促進に取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通じて、グループホームの運営や認知症などの情報の発信に努めている。個別には、町内のお祭・清掃活動・花植えを通じて地域に根ざした活動に取り組んでいる。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2ヶ月に一度開催し、サービス等の現状について報告させて頂いている。その場で寄せられた意見や要望、提案は議事録を通じて職員間で共有されており、また即応できるように努めている。	2ヶ月毎に運営推進会議を開催し、地震や津波等の緊急時の避難誘導や関係機関への通報や協力体制等具体的内容について話し合い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	主に運営推進会議へのご案内・参加を通じて、事業所の実情等について説明させて頂いている。また、事業所の運営や手続き等についても適宜問い合わせ、ご指導を頂いている。	市担当者や包括支援センター職員との連携の重要性について十分に認識し、運営推進会議や日常業務を通じて情報交換や助言を得ながら連携を深めるように努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を中心に周知徹底・指導を行っている。施錠についても、防犯上必要な夜間(20時以降)を除き玄関は施錠していない。職員は、自らの何気ない言行で入居者様の行動を制約しないよう注意している。	全ての職員が指定基準における禁止の対象となる具体的な行為を正しく理解しており、身体拘束廃止委員会の研修で共有が行われている。また、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	新規採用職員へのオリエンテーションや事業所内での勉強会などを通じて職員へ周知徹底に努めている。職員は、基礎的な知識を背景に想像力と洞察力を身につけ虐待を看過することのない様に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	運営推進会議に行政書士を招き、入居者様・御家族様、および職員に向けた、成年後見人制度の説明を実施した事がある。現在、当該制度を利用している方はいませんが、今後は職員も基本的な説明が出来るように勉強会を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居窓口担当者を中心に、入居前から十分な説明を繰り返し、契約内容や重要説明事項などを分かりやすく説明している。また、その家族に関わりが強い部分は更に重点的に説明を重ねてトラブルを作らないように行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様の日々の暮らしで困っている事・御家族様の面会・定期的な電話・運営推進会議(2ヶ月に一度)で出た内容は、改善できる内容なのか、経営者を含め、検討し、改善出来る事は、現在何処まで改善出来ているのかなど、毎月送る請求の封筒にお便りなどで同封するようにしている。	年に1度「利用者・家族アンケート」を独自に実施し、結果を集計し、意見や要望、苦情等の改善策を話し合い、その結果を家族に報告し、サービスの向上に活かす取り組みが行われている。また、家族や来訪者等が管理者、職員並びに外部者へ意見や苦情等を言い表せるように苦情等の受付箱を設置し、市町村等の相談窓口等掲示している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のスタッフ会議を中心に、一人ひとりが意見を述べられるように、会議を進めている。皆が納得した検討内容、安全な範囲での提案は、すぐに取り入れ、経過観察しながら、モニタリングを行い、さらなる検討へ繋げている。管理者は代表者と連絡が取れる体制になっており、可能な範囲で対応して頂いている。	日常業務やモニタリング、カンファレンスを通じて、職員の意見を言い表す機会を設けている。また、毎月開催するスタッフ会議で、職員の意見や要望、提案を運営に反映する機会を設けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	一年毎の雇用契約更新時期に、職員一人ひとりの勤務年数・勤怠状況・仕事に関する免許取得など、総合的な判断材料を基に、給与に反映させて頂いている。今年度については介護職員処遇改善計画も行われており、長期的な雇用定着や賃金改善に力を入れている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人オリエンテーションのほか、必要に応じた様々な研修をユニット毎に随時行い、職員の育成に努めている。法人外の研修についても広く職員への告知を行い、希望者を募ることで研修を受けるため機会の均等を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会を中心とした集まりで、勉強会や講演会に参加しており、日々のサービス向上へと生かすことができるように努めている。なお、そうした場で得られた情報は、各種委員会や管理者を通じた伝達のほか、インターネットシステムにより職員への共有が図られている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	生活するに当たって本人が困っている事や不安な事を常に職員間で把握する様に努め、また早急に解決出来る様、スタッフ会議を通じて検討し安心して過ごして頂ける様、努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用前に御家族様から不安事・心配事を必ず聞き職員間で把握し、安心して利用して頂ける様、スタッフ会議にて検討を行い改善に向け取り組んでいる。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアプランの作成において、入居者様・家族が必要としている支援を必ず第一のサービス内容とし、他のサービスにおいても必要な事は全てプランに乗せ全職員にて統一したサービスの提供を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	当ホームの理念にもあるが、利用者様を人生の先輩として尊重し、様々な生活の場面を通じ、知識・知恵を学ぶ事を忘れず、また共に過ごし共に笑い共に悲しむ気持ちを大切に日々、努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には居室や食堂等、希望された空間で穏やかに過ごして頂ける様、配慮している。また入居者様と御家族が疎遠とならない様、遠方の御家族へは管理者より、電話連絡を行い近況の報告を行っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	電話やお手紙など、入居者様が希望される、連絡手段で支援を行っている。特に面会等は制限せず、気儘に訪れて頂いている。	地域の盆踊りやお祭り参加等を通じて馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。また、馴染みの美容室訪問や商店の利用で関係が途切れないように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事の際やお茶の時は、利用者様同士の関係を配慮した席になっており、話しやすい環境作りを行っている。また入居者様同士でテーブル拭き、食器の片付け等を行って頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後もご本人様やご家族が希望される範囲内で相談等に応じており、必要に応じたフォローに努めている。他サービスを利用される際も、違和感なく移行出来る様に連携を図っている。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様の思いを把握し、職員が共有することで意向に添うべく努めている。思いが把握しにくい場合でも、御家族の意見等を考慮し、ご本人の意向に沿えるよう努めている。	一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努め、カンファレンスやモニタリングを通じて職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	フェイスシートへの記載や日々の生活の中での会話、御家族の話などを通じて把握出来る様心掛けています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	カンファレンス会議を定期的に行い、入居者様の現状について多面的に考察、把握出来る様努めている。また、日々の暮らしを通じて出来る事出来ない事の見極めに努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンス会議を定期的に行い、ニーズや目標（短期・長期）、現状に即したケアのあり方について話し合い、その結果に基づき介護計画を作成している。医療関係者等にも適宜意見やアドバイスを頂いている。	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族の意見や希望を反映し、現状に即した介護計画を作成している。また、カンファレンス、モニタリングを通じて介護計画に職員の意見を反映している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者様個々のケアへの気づきや工夫などについては、日々の申し送りや社内ネットワークを通じて情報を共有し、実践している。得られた情報は介護計画の見直しにも役立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外部の事業者を活用しながら、理美容やリハビリテーションなど個々の入居者様のニーズにお答えできるよう努めている。定期不定期の買い物や外出も行ける様努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町会の活動（花植えや夏祭り等）を中心、ご本人の出来る範囲で参加して頂いている。また、地域の小中学校の訪問を受けたり、行事（運動会等）に招待され出席させて頂いている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	掛かり付け医を継続的に安心して利用できるよう特に制限を設けずに対応させて頂いている。職員は、掛かり付け医との良好な関係を維持すべく必要に応じた支援を行っている。	通院への送迎等の支援や医師、歯科医等の往診で適切な医療を受けられるように支援している。また、本人や家族の希望するかかりつけ医となっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回の医療連携看護師による健康チェックを設け、日常でとらえた情報、些細な変化でも、すぐに報告、相談し、入居者一人ひとりが、適切な看護を受けられるよう努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者様と関わりのある病院と常に連絡、相談が出来る関係を作っている。また、入居者様が入院した際は、病院関係者と情報交換を絶えず行い、早期退院が出来るようにサポートしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居者様一人ひとりの悪化の状態を、初期の段階から、ご家族様へ伝え、段階的な報告を行っている。現状ばかりではなく、1歩2歩先まで見据えた対応も、医療連携看護師や主治医と相談し、入居者様やご家族様の意向に沿えるように対応している。	重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から事業所ができることを十分に説明しながら指針を職員間で共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者様の变化に備え、救急箱の設置や医療連携看護師に、常に連絡出来る環境を用意し、すぐに対応できるよう、職員は応急処置の訓練を行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練や、火災報知機の点検を定期的に行い、マニュアルを設備し災害に備えた心構えが常に持てるようにしている。	市担当者・消防署の助言やアドバイス、近隣住民と協力しながら災害時の避難場所提供で緊急時に速やかに対応ができるように行政・地域との協力体制構築及び事業所の持つ機能を地域に提供できるように取り組んでいる。	ヒヤリ・ハットで事故の未然防止に取り組んでいるが、データ収集と再発防止策について再度検討を進めているので、その効果の上昇に期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様一人ひとりの性格を理解しその人に合わせた声掛けと対応をし、居室に入らせて頂く、掃除の際はご本人の了解を得て、行わせて頂く。	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉がないように職員間で周知している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	着替えの際はご本人様にどのような物が着たいのか、意思表示が難しい方にも、混乱しない程度に、どちらが好きかなど、選べるような環境を作っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事、トイレ、就寝など、ご本人様に合わせたサービスや意向を取り入れている。急な買物や入浴の都合にも出来る限りの対応をさせて頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えの際、ご本人に衣服を選んで頂き、その人らしい身だしなみ出来るよう、声掛けさせて頂いてる。意思表示が難しい方でも、季節や行事に合わせた服装が出来るようにしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事を楽しめるように、各入居者様の好物や苦手な食べ物、味付け等を考慮している。また、食事の準備や方付け等、声掛け見守りにて行っている。	食事が楽しみなものになるように、一人ひとりの好みや力を活かしながら、調理や食事の準備、後片付け等職員と一緒にやっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各入居者様に合った食事量、栄養バランスを考えて食事をお出ししている。また、水分量が足りない入居者様には果物やゼリー等を勧めさせて頂いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口臭、誤嚥が生じないよう、毎食後にそれぞれに合った口腔ケアの声掛けや一部介助をさせて頂いている。必要な場合は歯科受診などで対応している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各入居者様の排泄のリズムや、ペースを把握し、失敗を減らせるように、声掛け誘導をさせて頂いている。	一人ひとりの力や排泄チェック表で排泄パターンを把握し、トイレで排泄できるように自立に向けた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便表や申し送りにてスタッフ間で情報交換をして個々の負担にならない様な声掛け、薬の服薬だけに頼らず水分摂取等も進めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	各入居者様に合った入浴介助をさせて頂き、入浴を好まない入居者様には、気分を害さない様その都度声掛けを行っている。	一人ひとりの希望やタイミング、生活習慣に応じて支援している。また、入浴を望まない利用者にも柔軟な支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣を把握して、希望に沿うように支援している。眠れない時等は話を聞いたり水分を勧めたり安心して頂ける様、努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者様が服用している薬の作用、副作用の理解、把握に努めている。また誤飲、誤嚥が無いよう見守りさせて頂いている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の能力に合った楽しみながらの家事手伝いをして頂ける様に、その都度、役割分担をして他入居者様とのコミュニケーションを図りながらのお手伝いをして頂いている。また、天気の良い日は、散歩等、気分転換をして頂いている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には散歩やドライブ（お花見、紅葉狩り等）等、外出の機会が持てるように努めている。地域の方との交流を深める為、小学校の行事への参加（運動会、学習発表会）、町会のお手伝い、その他地域の行事にも積極的に参加している。	訪問調査日には、流しそうめんや焼き鳥等中庭で行われ、楽しみごとへの支援が行われていた。また、一人ひとりのその日の希望にそって、散歩や買い物、お祭り見物やドライブ等戸外に多く出かけられるように支援したり、馴染みの美容室の利用や商店での買い物ができるようにも支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理出来る方は自己管理して頂いている。管理が難しい方についても、管理者の管理のもと、ご本人の意思を尊重しながら支払いを行って頂く等の対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話所有の方は自由に行って頂き、無い方も希望に応じて電話の発受を自由に行って頂いている。また、手紙等は基本的にご本人にお渡しし、投函は職員が代行する等状況に応じて対応している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	気候に応じて、照明やカーテンを活用して調光したり、窓を開放して換気をしたりしながら少しでも暮らしやすい環境が作れるように配慮している。また、イベント（誕生会、お花見等）時のお写真を掲示したり、日めくりカレンダーを設置することで季節の移ろいを感じて頂ける様に努めている。	5階建て5ユニットの鉄筋コンクリート造りの建物で、廊下やリビング等の共用空間は広く、一人になったり、談笑ができるようにソファや椅子、テーブルの配置を工夫している。また、利用者にとって気になる臭いや音の大きさ、光の強さは感じられない。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下やホールには椅子やソファが配置されており、個々の入居者様はお好きな場所で、談話をされたり、雑誌を読まれたりと思い思いに過ごされている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	事前にご本人やご家族に実際に居室を見て頂く機会を設けている。また、入居に当たっては極力使い慣れたものをお持ち頂く様にお願いしており、住み慣れた住まいの延長線として、安心して暮らせるよう配慮している。	居室には、本人や家族と相談しながら、使い慣れた家具や寝具、家族の写真等が持ち込まれ、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーの他、各所に手すりが設けられており、つかまり歩きが出来る様に配慮されている。また、分かりにくい場所には見えやすい位置に案内を貼る等して対応している。		

(別紙4-1)

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0171400682		
法人名	医療法人社団 向仁会		
事業所名	グループホーム よろこびの家2階		
所在地	北海道函館市栄町16番地16号		
自己評価作成日	平成24年7月1日	評価結果市町村受理日	平成24年9月11日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0171400682&S
CD=320&PCD=01">http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0171400682&S CD=320&PCD=01
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	タンジェント株式会社
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1-6 旭川リサーチセンター内
訪問調査日	平成24年8月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当グループホームは5ユニットと稀にみる大所帯です、職員の人数も多く、協力合っています。また、当法人はグループホームが他に3箇所とクリニック、老健施設、包括支援センターがあり、相互で情報交換や勉強会、研修等を実施し、全体で質を高め、向上できる体勢にあります。グループホームでは独自の理念を掲げ、職員全員が理念に基づいた環境作りに心掛けています。入居者様からは当然ですが、ご家族様からの要望なども、その都度意見や疑問を聞きながら、その内容の経過や段階を報告し、出来るだけ意向に沿った運営が出来るように常日頃から実施しております。近隣との繋がりにも重点を置き、町会主催の夏祭りや餅つき、街の清掃活動などイベント活動に入居者様と共に職員も参加させて頂き、ご理解や馴染みの関係を作っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

[illegible]

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができて いる (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々 が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者 とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者 や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情 や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足 していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な 支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝朝礼時に職員が理念を述べ、大切さを日々実感し、確認し合っている。スタッフルームやカウンター等誰にでも見ていただける様に掲示し、実践に繋げている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域に隣接している町会と交流を深めており、クリーン作戦や花いっぱい運動やお祭りのお手伝いなど、町会行事参加している。毎月欠かさず回覧板は回ってきている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町会の行事には入居者様と職員と積極的に参加し、数多く交流を深め、馴染みの関係を築き、施設の行事にも気軽に立ち寄って頂き、実践の中で理解していただけるよう働きかけている。又、要望があれば認知症の講演会も開催している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には、ご家族、町会の方等、幅広く参加して頂き、ご意見、質疑応答を頂き、サービスの向上に努めている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の時や、困難事例の相談などを都度連絡して密に実情や取り組みをお伝えして、サービスの向上に努めている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を定期的に開催し、入居者様の人権、尊厳を重視し、職員一人ひとり、正しく、不安のないケアが出来るよう、共通の意識を持てるように話し合いの機会を多く作り取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	身体拘束廃止委員会において、事例検討等を行い、入居者様に対して、細かい配慮、気配りを払うよう、職員一人ひとりの意識の向上に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	当法人系列の包括支援センター主催の勉強会に参加して権利擁護を学んだりしている。現在、必要とされている入居者様はいないが、必要時に備え体制は整えているが再度、専門家に講演を依頼し、職員、ご家族と一緒に活用できるように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結・解約の際は、利用者様、ご家族様に説明を行い、理解を得ながら行っている。十分伝わらない際には、都度説明し対応している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様の日々の暮らしで困っている事・ご家族様の面会・定期的な電話・運営推進会議で出た内容は、改善できる内容なのか、経営者を含め、検討し、改善出来る事は、現在何処まで改善出来ているのかなど、毎月送る請求の封筒にお便りなどで同封するようにしている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	勤務時間により、会えないときがあっても、専用インターネットを利用し、意見や提案をいつでも聞けるように努め業務改善等に反映している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年1回の人事考課や個人面談を行い、個々の職員に合わせその都度、努力や実績・勤務状況を把握できる体制を整えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勉強会や研修会の参加を院内メールを使用し、全職員に促している。ユニット毎でも勉強会を開催し、勤務時間内に誰でも参加できる体制を築いている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	南北海道グループホーム連絡協議会に加盟しており、その中での勉強会に参加し、近隣のグループホームとは交流も現在を深めている		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	管理者、二名で面談して、ご本人、ご家族が困っていること、不安なこと、要望を聞き今後、係っていく職員全員が共有し解決していく様、努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談の際にご家族と話し合い困っている事、不安、要望を聞き、都度対応し関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた際には、必要とされている情報を提供し、ご本人、ご家族と話し合い、今後のケアやプランに繋げている。場合によっては、近隣の施設とも連携をとり、対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の過去の経歴を踏まえ、コミュニケーションを図っている。時には、料理や昔の遊びなど、職員の知らない知恵を教えて頂いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者様の変化や状況は都度報告を行っている。ご家族の希望、要望は可能な限り取り入れ、対応しています。職員とご家族が共に入居者様を支えていく関係に務めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会には、制限を設けていない為、ご本人の友人、近隣の知人も訪問される。時には、電話や手紙などもお手伝いさせて頂いている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様の性格、生活歴を把握し一人ひとりに合わせたケアを行い、また、入居者様が一同に集って安心できるような環境づくりに心掛け孤立しないように努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も関係を断ち切らない付き合いを、心掛け必要に応じフォロー・相談・支援に努めている。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様と日頃の会話や生活から、意見、思いを取り入れ、定期的なカンファレンス会議を行い、自立支援を念頭に置き、身体的状況の変化を見逃さないよう支援している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族、ご本人との会話、面談から、フェイスシートを作成し、職員間で情報を共有し出来るだけ馴染みの暮らしが出来るよう、努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝・夕の申し送り、介護記録、カンファレンス会議を行い、入居者様一人ひとりの状態、現状把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族、介護支援専門員、主治医、医療連携看護師等と定期的に話し合いや会議を開き、意見やアイデアをご本人・ご家族の意向を反映した介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日中、夜間の状態観察、排泄、食事量、水分摂取、検温、血圧測定等、個々に全て記録している。職員間で共有した寄り良い介護計画に繋がるよう、活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人、ご家族の状況、状況に対応し、外出、買い物、受診など多くのニーズに柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の町会・小学校やボランティアの協力を得て、催し事に参加して頂き、暮らしを楽しめる様に支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	週1回、医療連携看護師の健康管理を行っており、いつでも相談や支持が受けられる様になっている。又、以前からの掛かりつけの病院に継続して、受診できるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携看護師と情報交換を行い、状態の変化があった時には、指示を頂いている。週1回の健康管理での訪問や随時、電話対応が体制を整えている。又個々の利用者様の適切な医療が受けられるように努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	管理者が入院先の病院と連絡や情報交換を行い、入院先でも安心して過ごせるように医療機関との関係作りに努めている。また、早期退院が出来るよう支援している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族、主治医、看護師と担当国会議を行い、重度化、終末期に向けた対応や希望について話し合い、早い段階から主治医を中心とした医療・介護がチームとなり、連携を密にして安心して暮らせるよう支援を行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時のマニュアルがあり、勉強会、研修会を開催し、全ての職員が対応できるよう努めている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防立会いのもと、避難訓練を行っている。全ての入居者様が災害時に避難できるよう、今後は近隣住民の協力が得られるよう体制を整えていきたい。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様への声掛け時は、プライバシーを損ねないよう配慮し、職員間でも気をつけ、注意しあうような体制をとっている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話をする際は一人ひとりに合わせた説明を行い、言葉に表せない心の動きなど、表情に気を配り、自己決定できるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の業務の都合を優先しがちであるが、入居者様の気持ちを大切に最優先に考え支援できる環境作りに心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月1回の訪問での理髪、希望された入居者様には近隣の美容室での理髪をされている。季節に合った服装の声掛けや本人が選んだ洋服が着れる様支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの持てる力を活かし、出来る事は無理の無い範囲で家事等を職員と一緒に楽しんで出来るよう支援している。季節によっては、弁当をもって外で食事をしたり、時には外食も行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養のバランスが偏らないように、メニューを考え、好き嫌いがある方にも声掛けし、少しでも召上って頂くようにしている。定期的に水分補給を行い、食事や水分量を記録している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	義歯洗浄や歯磨きは声掛け行い、見守り、介助を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握する為に介護記録等を活用し、職員連携を図りトイレ誘導を行っている。又、医療連携看護師と連携し、下剤の調整など指示を頂き、支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳やヨーグルト、たっぷりの水分補給に配慮し、毎朝全員で行うラジオ体操など、適度な運動を心がけ支援している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴をを楽しんで頂ける様努めている。入浴が嫌いな方には、無理強いしないよう努めている。清潔を保つ為、週2回は入浴していただけるようにしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様はそれぞれ好きな場所で休息をとられており、その時の気分を尊重している。就寝時間は決まっておらず、個々の時間や習慣を大切に個別に対応できるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬については常に新しい情報を職員間で院内メール、申し送り等で確実に伝えている。個々の服薬については、手渡し、見守り、介助等で確実に支援している。体調の変化が見られた際には医療連携看護師に連絡し、調整を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や持てる力を考慮しながら、支援している。職員は入居者様の体調や気分を考慮し、その時々に応じ声掛け行っている。作業の後には労いの言葉を掛けている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には散歩やドライブ（お花見、紅葉狩り等）等、外出の機会が持てるように努めている。地域の方との交流を深める為、小学校の行事への参加（運動会、学習発表会）、町会のお手伝い、その他地域の行事にも積極的に参加している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自身でお金の管理できる方は自己管理して頂き、難しい方は管理者が管理し、希望に添う様職員が購入のお手伝いをしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自力で電話が掛けられる方は、自室に設置している。手紙の返信も職員がお手伝いし自力で出して頂く様にしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールや廊下には季節にあった花や飾りつけ等をして、四季や生活観が感じられる様にしている。不快な音や光が入らない様にしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂や廊下にソファを配置してどこでも、寛いで頂ける様にしている。窓際にも配置し外を見れる様にし、季節や風景を楽しめる様にしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際、ご本人が使い慣れた家具を持参して頂く様説明し、自宅と同じ様に寛げる空間作りに配慮している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全体がバリアフリーになっており、手すりも完備されており、足元の安全確保がされている。歩行の困難な方には居室内にポータブルトイレを配置し自立した生活が送れるように努めている。		